新・下野市風土記

五六億七千万年

下野市教育委員会　生涯学習文化課

十二月になりました。十二か月前に新年の挨拶をし、新しい年の始まりに向けて様々な目標を立て臨んだ方も多いかと思います。さて皆さんは、過ぎ去った日々をどう振り返りますか？普段、仕事で一万年前とか千三百年前とか、古墳時代後期などと時空を超越したような言葉を使い文化財の説明をさせていただいているため、一年という単位が時折ピンとこなくなってしまうことがあります。今年のように地震や噴火、台風などの災害のほか、疫病などが多く続いた平安時代の終わり頃の永承七年（一〇五二）には、末法の世を迎えるとされました。この事柄は教科書には末法思想として説明されています。釈迦の入滅後およそ五百年は正しい仏法が行われますが、その後、年数が立つと人々が仏教の教えを軽んじるようになり、修行も怠り悟りも得られないような末法の時代が一万年も続くと考えられていました。このように暗く不安な時代である平安時代後半の人たちのタイムスケールはさらに大きく、弥勒信仰と結びついて、釈迦入滅後五六億七千万年の後に再び弥勒がこの世に現れ釈迦の救いに漏れた人達を救うとされました。戦乱で明日の生死もわからない戦国期の東国の武士たちは、この考えを多く受け入れました。きっと気の遠くなるような未来、本当かどうかわからない未来でも、いつかは救われるという望みをもっていたことなのかもしれません。

話題は変わりますが、九月に市内の小学六年生全員に歴史についてアンケート調査をさせていただきましたが、歴史が嫌いと回答した人は5パーセント、好きが47パーセント、普通が48パーセントでした。「好きな時代は？」の問いに男子は、鎌倉から江戸時代、女子は奈良平安時代、江戸時代が多く、中には「平成」に丸を付けてくれた人も数人いました。「歴史上の人物で好きな人は」の問いに男女とも一位が織田信長、続いて徳川家康、男子は豊臣秀吉などの戦国武将と坂本龍馬、源頼朝、聖徳太子などが続きます。女子は上位に紫式部、清少納言、卑弥呼がランクインします。はっきりと嗜好が分かれるようです。

大河ドラマやゲームなどの影響もあるのかもしれませんが、一種のあこがれもあるのかもしれません。

「将来、行ってみたい世界遺産は？」の問いに一番多い回答は、富士山、次いで金閣寺・銀閣寺、姫路城などが上がっています。マチュピチュ、モンサンミッシェル、サグラダファミリアなど良く知っているなと感心する回答もありました。

今回のアンケートで意外な結果と思ったのが、縄文時代～平安時代を好きな時代と選んだ児童がかなり少なく、特に縄文・弥生時代に比べると古墳、飛鳥・奈良時代を選んでくれた人はほんのわずかでした。やはり一万年とか三千年とか千五百年とか漠然とした時間軸が受け入れてもらえない要因なのでしょうか？古文書などの記録もわずかしか残って無い時代のため、登場人物の顔が見えない時代と言われますが、これらの時代の面白さを知ってもらうためにはもっと工夫が必要なのかもしれません。残念ながら遺跡や史跡などでは直接個人の顔が思い浮かぶことはありません。下野薬師寺跡のように古麻呂、道鏡などと個人が思い浮かぶ史跡は関東地方でも稀で、県内で全時代を通してみてもわずかだと思います。

現代が末法の時代かどうかは分かりませんが、これだけ科学が進歩した時代でも大晦日には多くの人たちが、一年間の御礼と新たなお願いのため神社や寺院にお参りに行くことでしょう。